

人物じんぶつのようすや気もちに気をつけて読もう

めあて

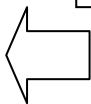
「名前を見てちょうだい」 あまん きみこ作

野原でえっちゃんがつつねと出会う場めんばうめんの音読おんよみのくふうを  
考えよう。

○きつね(のはらこんきち)のようす

- ・ 赤いぼうしをちよこんとかぶっている。
- ・ 白いすすきをもって、プープーふいている。
- ・ すましてこたえた。
- ・ しぶしぶぼうしをぬいで見せた。

「へんねえ。」



読み

- ・ ふしぎだなあ読み
- ・ おこりんぼう読み
- ・ こまつたなあ読み

きつねがぼうしをかぶっている挿絵さしえのコピー

へんねえ。

- ・ あたしの名前なまえが書いてあるはずなのに、おかしいなあ。
- ・ なんてあたしの名前なまえがかいてないんだらう。
- ・ あたしのぼうしはどこに行ったんだらう。
- ・ きつねさん、うそをついているんじゃないかな。

【5 / 15 時間目 指導略案】 使用するワークシート⑤  
活動のねらい

三の場面の会話文の音読の工夫を話し合うことで、えっちゃんの様子や気持ちを想像することができるようにする。

1 本時のめあてを確認する。

- 前時の場面での、えっちゃんの大切な帽子が、風にさらわれて野原に行ってしまったことを想起させ、本時のめあてにつなげる。

2 野原でえっちゃんがつつねと出会う場面(三の場面)を音読し、音読の工夫について自分で考える。

【発問】「へんねえ。」はどのように読んだらよいでしょう。

- 音読の工夫を「く読み」としてワークシートに書かせる。その根拠となる言葉や文にサイドラインを引かせ、そこから分かる様子や気持ちを書き込ませる。

3 音読の工夫について話し合う。

- まず、ペアで音読の工夫やその理由を交流させる。理由は、叙述を基にして述べることができるよう、サイドラインや書き込んだ内容を参考にさせる。

- 次に、学級全体で音読の工夫やその理由を交流させる。その中で、えっちゃんの行動や様子に目を向けさせていく。また、きつねがぼうしを返す気がないことにも気付かせる。

※ 役割読みをすると児童は人物の気持ちを楽しく考えることができます。(児童がえっちゃんの会話文を読み、教師がきつねの会話文や地の文を音読する等) 話し合ったことを基に、えっちゃんの気持ちを想像する。

- ワークシートの吹き出しに、「へんねえ。」に続くえっちゃんの言葉を書かせる。

評価 帽子の名前が変わっているのを知ったえっちゃんの気持ちを想像して、吹き出しに書いている。(イ1)

5 本時を振り返り、次時の学習内容を知る。

- きつねの行動や名前の変化からもえっちゃんえっちゃんの気持ちきもちが想像できたことを押さえる。

- 板書を参考にして場面全体を音読させ、ワークシートで自己評価をさせる。
- 次時は、四の場面を学習することを知らせる。